

《平成 28 年度 千葉市発達障害等に関する巡回相談事業 (すくすくサポート) 経過報告》

【目的】

市内の保育所(園)及び幼稚園において、発達障害等が疑われる児童を早期に発見のうえ、適切な支援機関につなげることを目的に実施する。

【内容】

保育所(園)及び幼稚園を利用している児童の保護者、施設職員からの発達障害に関する相談のほか、児童の発達上の課題等の悩みに対応する。保護者・施設職員から対象児童の普段の様子や心配している点などを書類に記入してもらい、当日の観察結果と併せて検討する。より詳しい相談が必要と相談員が判断した場合は、専門の相談機関の利用を勧める。

4 月に子育てアシストと合同で説明会を実施し、各施設への周知を行った。その後、啓発用のチラシを作成し、各施設に郵送した。後期 10 月以降申し込み件数が伸び悩んだ為、普及に向け巡回相談事業のポスター作成及び、保健福祉センター・保育所(園)への啓発活動を実施した。

【対象】

市内の保育所(園)、幼稚園及び認定子ども園に通う年少・年中・年長児のうち、障害の診断(傾向・疑い含む)が出ていない児童を対象とする。なお、年長は9月まで、年少は10月以降の訪問とする。また、原則として保護者の同意を得るものとする。

【当日の流れ】

巡回相談員の訪問時間は、当該施設の開園時間内とし、調整のうえ、決定する。基本的な流れは以下の通りである。

9:30	観察開始
12:00	観察終了
	巡回相談員休憩・打ち合わせ
13:30	個別相談
16:00	終了予定

【変更点】

前年度の反省を踏まえ、以下の点を変更した。

- ・名称に「すくすくサポート」追加
- ・対象年齢の拡大(年少児～年長児)
- ・未診断児童のみ対象
- ・相談時間の拡大(15 分→20 分)
- ・フォローアップの実施

【実施結果】

(1)月間実施数(平成 28 年 4 月～12 月※延べ数)

	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
実施数	2	5	5	6	8	6	3	1

(2)施設種別実施数(平成 28 年 4 月～12 月※延べ数)

	実施数	対象児数	機関紹介児数※
保育所	10(美浜 2、稲毛 4、中央 2、花見川 2)	19	13
保育園	9(美浜 2、稲毛 1、中央 1、花見川 1、若葉 2、緑 2)	14	9
幼稚園	14(美浜 3、稲毛 2、中央 6、花見川 2、若葉 1)	30	11
認定子ども園	3(美浜 1、稲毛 1、緑 1)	6	4
合計	36(美浜 8、稲毛 8、中央 9、花見川 5、若葉 3、緑 3)	69	37

※「機関紹介児数」は実施時、すでに支援機関予約済みの児童は含まない

(3)年齢別実施数(平成 28 年 4 月～12 月※延べ数)

	年少児	年中児	年長児	合計
対象児数	12	32	25	69

(4)フォローアップ実施数(平成 28 年 4 月～12 月※延べ数)

・対象児数:11 名(内、実施数 5 名)

後日施設職員から報告があり、支援機関に繋がったことを確認できたのは 7 名である。

【考察】

○年齢について

年中児は通年、年少児・年長児については期間を限定し対象とした。割合は年少児 11%、年中児 53%、年長児 36%であった。年長児は 5 ヶ月間、年少児は 3 ヶ月間の合計数であるが、その影響を考慮しても年少児の申し込み数は少ないように思われた。年長児は就学を目前に控えており、保護者も相談意欲を持つが、年少児に関しては「まだ様子を見たい」という気持ちが強いいためではないかと考えられる。

また、年長児に関して、保護者・施設職員共に就学相談ができる支援機関の存在を知らず、10 月以降も問合わせがあったことから、対象年齢に関しては再度検討する必要がある。

○保護者同意の必要性について

巡回相談または啓発活動で訪問した施設の職員から、最も多く寄せられた意見は「施設側が気になっている児童に関して、保護者からの同意が得られないので申し込みができない」というものであった。保護者との相談に重きを置けば同意は前提であるが、それ故に利用数が増えないという状況を考慮すると、同意が得られない場合の対応を検討する必要がある。

○診断済み児童のケースについて

障害の診断が出ている児童の保護者からの申し込みが多数寄せられた。また、施設職員より「保護者は集団での様子や対応方法を知りたいのだと思うので、支援機関を利用しているから対象外というのはニーズとずれているのではないかと」との意見もあった。診断済みのケースの相談は、ニーズは多いと思われるが、主旨との齟齬が懸念される。